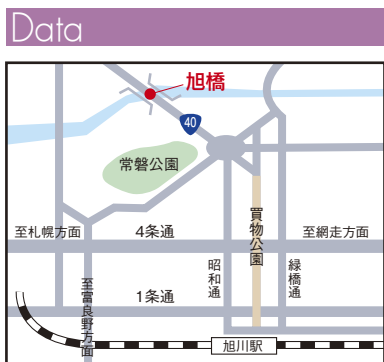




現在の旭橋の渡橋式（昭和7年）。



●問い合わせ先
 北海道開発局旭川開発建設部
 地域振興対策官
 Tel. 0166-32-1111 (内線3455)
 旭川市企画財政部企画課
 Tel. 0166-26-1111 (内線2612)

大阪に匹敵する。よって旭川市民にとって橋は身近であり、なくてはならないものである。必然的にその代表格である旭橋に対する市民の思い入れは、他の街とは比べようがないものなのだ。

旭橋の正面に、標語が書かれた半円の額が掲げられている珍しい写真が豆本にある。その額には、扇の要の位置に「誠」とあり、以下「忠節」「礼儀」「武勇」「信義」「質素」と扇状に書かれている。文中の逸話によれば、電車が橋の上を通過するときは、車掌が「気をつけ！」と号令をかけたところ。何とも戦時色の強い話だが、橋が単なる道路の延長ではなく、第七師団の第一鳥居の意味合いもあったと想像されるのだ。

現在の旭橋の風景は穏やかである。夕日を受けたシルエットや、川面の水蒸気で霞む、ライトアップされた旭橋は、ロマンチックな北国の情景である。この穏やかな名橋を、次世代も原風景にとても、受け継いでいくことを願うのである。



初代旭橋。昭和7年に深川市の納内橋として再生され、昭和40年まで使用された。（写真は「旭橋60周年記念誌」より）